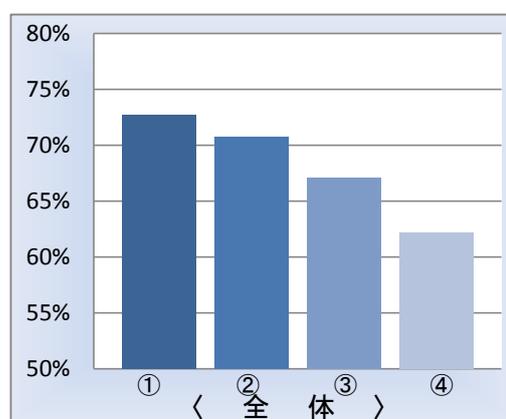
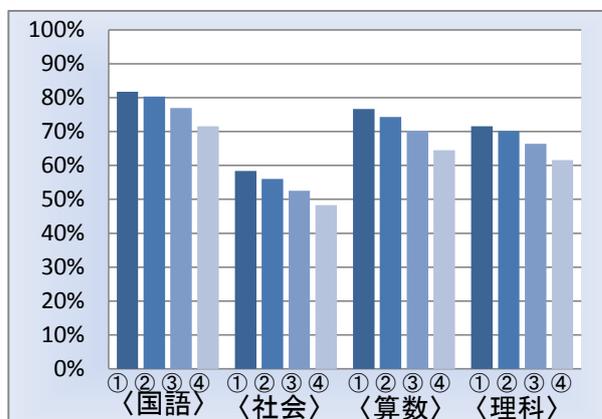


## 14 勉強は好きですか。

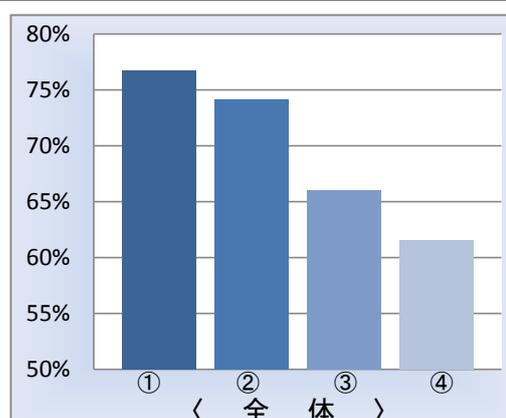
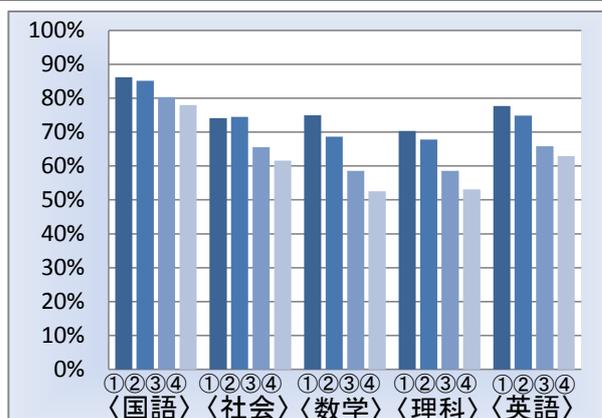
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① 好き	81.7%	58.4%	76.7%	71.6%	72.7%
② どちらかという、好き	80.3%	56.1%	74.2%	70.2%	70.8%
③ どちらかという、好きではない	76.9%	52.6%	70.2%	66.4%	67.1%
④ 好きではない	71.6%	48.3%	64.5%	61.5%	62.2%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① 好き	86.1%	74.1%	75.0%	70.3%	77.7%	76.7%
② どちらかという、好き	85.2%	74.5%	68.6%	67.8%	74.8%	74.1%
③ どちらかという、好きではない	80.4%	65.6%	58.6%	58.5%	65.8%	66.0%
④ 好きではない	77.9%	61.6%	52.5%	53.1%	62.9%	61.5%



### 【分析】

◇「勉強が好き」な児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

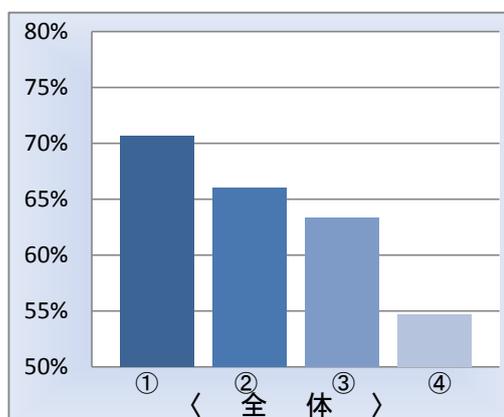
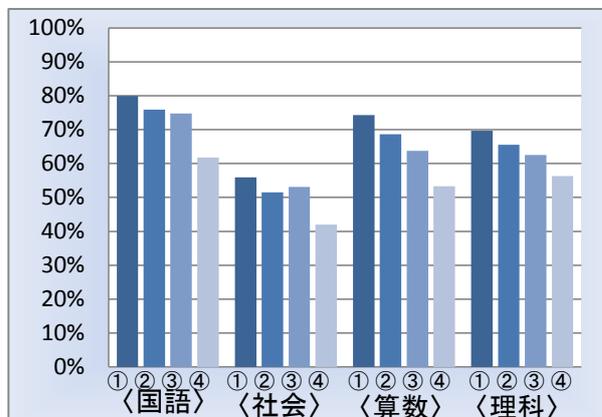
「勉強は好きですか。」について、「好き」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で72.7%、中学校で76.7%と高い値である。「どちらかという、好き」「どちらかという、好きではない」「好きではない」の順に平均正答率は下がり、「好きではない」では小学校で62.2%、中学校で61.5%となっている。「好き」と「好きではない」との平均正答率の差は、中学校の方が大きく15%程度の開きがある。教科別では、小学校では教科間の差は少ないが、中学校では数学と理科において「好き」と「好きではない」との正答率の差が大きくなっている。

何よりも「勉強が好き」「〇〇科の学習が好き」と言う児童生徒を育てる指導の工夫が、学力の向上につながるといえる。

## 15 勉強は大切だと思いますか。

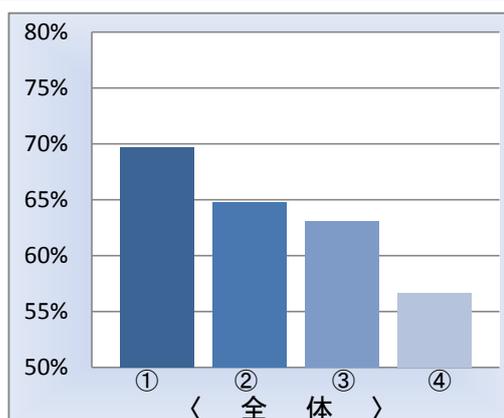
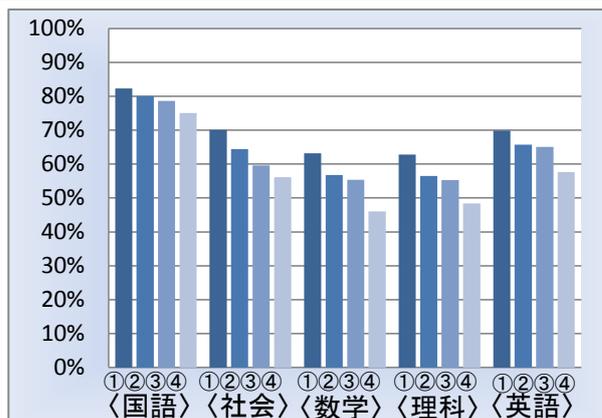
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① そう思う	80.0%	55.9%	74.3%	69.7%	70.6%
② どちらかという、そう思う	75.9%	51.5%	68.7%	65.6%	66.0%
③ どちらかという、そう思わない	74.7%	53.1%	63.8%	62.5%	63.3%
④ そう思わない	61.8%	42.0%	53.3%	56.3%	54.7%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① そう思う	82.3%	70.1%	63.2%	62.8%	69.9%	69.7%
② どちらかという、そう思う	80.0%	64.4%	56.8%	56.5%	65.7%	64.7%
③ どちらかという、そう思わない	78.6%	59.6%	55.4%	55.2%	65.0%	63.1%
④ そう思わない	75.0%	56.1%	46.0%	48.4%	57.6%	56.7%



### 【分析】

◇「勉強は大切だと思う」児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

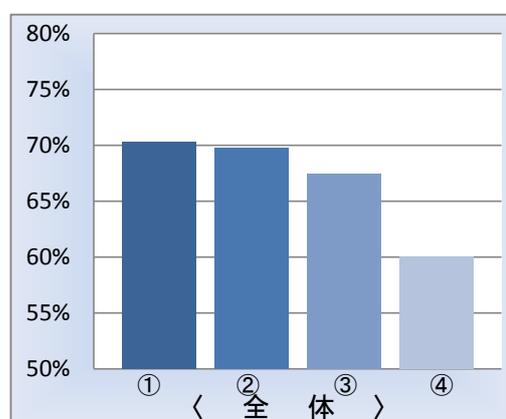
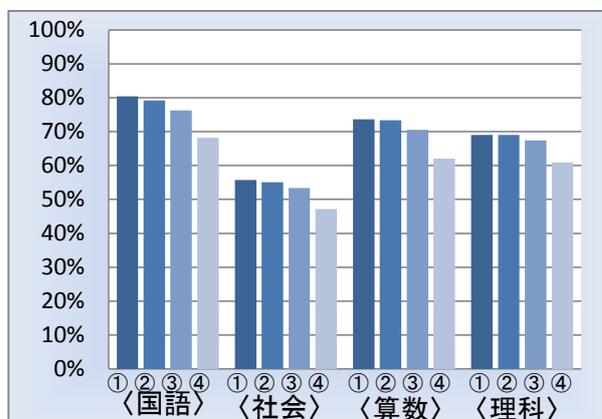
「勉強は大切だと思いますか。」について、「そう思う」を選択した児童生徒の平均正答率は小中学校ともに70%程度で、「どちらかという、そう思う」「どちらかという、そう思わない」「そう思わない」の順に平均正答率は下がっている。「そう思う」と「そう思わない」の平均正答率の差は中学校より小学校の方が大きく16%程度の開きがある。

勉強の大切さを感じることができない要因を探り、学ぶことの意義を感じることができるような指導の改善が、学力の向上につながるといえる。

## 16 自分から進んで勉強しようとする気持ちがありますか。

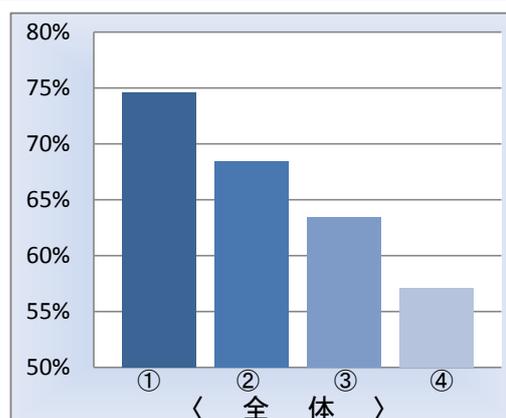
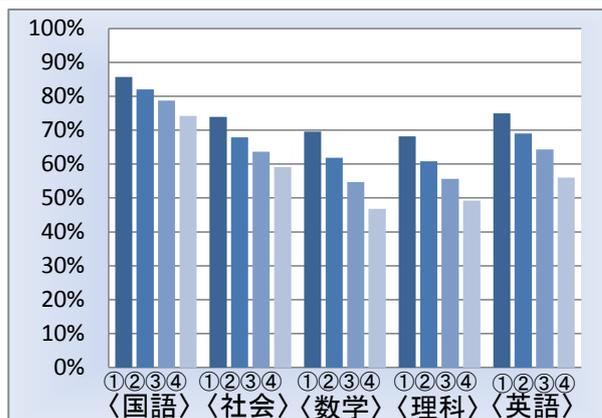
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① ある	80.4%	55.7%	73.6%	69.0%	70.3%
② どちらかというと、ある	79.2%	55.1%	73.3%	69.0%	69.8%
③ どちらかというと、ない	76.3%	53.4%	70.5%	67.4%	67.4%
④ ない	68.2%	47.1%	62.0%	60.9%	60.0%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① ある	85.7%	73.9%	69.6%	68.2%	74.9%	74.6%
② どちらかというと、ある	82.0%	67.9%	61.9%	60.9%	69.0%	68.4%
③ どちらかというと、ない	78.7%	63.6%	54.7%	55.6%	64.3%	63.4%
④ ない	74.2%	59.2%	46.8%	49.2%	56.1%	57.1%



### 【分析】

◇「自分から進んで勉強しようとする気持ちがある」児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

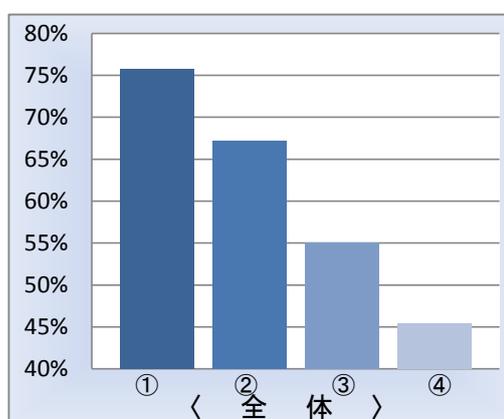
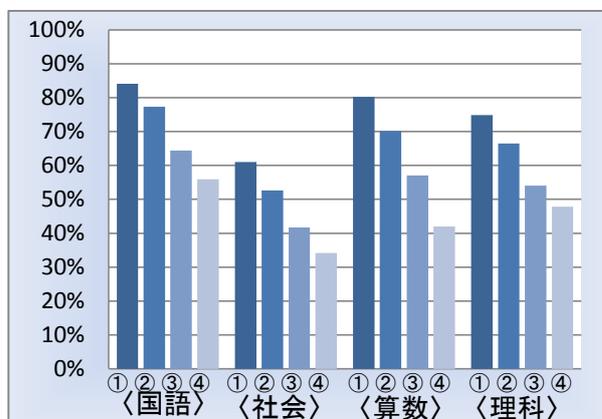
「自分から進んで勉強しようとする気持ちがありますか。」について、「ある」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で70.3%、中学校で74.6%で、「どちらかというと、ある」「どちらかというと、ない」「ない」の順に平均正答率は下がっている。「ある」と「ない」との平均正答率の差は、小学校が10%程度、中学校が18%程度で、中学校の方が相関関係が顕著になっている。中学校の教科では、特に数学、理科、英語において「ある」と「ない」との平均正答率の差が大きい。

発達の段階に応じて、主体的に学習に向かう意欲を高めていく指導の改善が、学力の向上につながるという。

## 17 学校の授業がどの程度わかりますか。

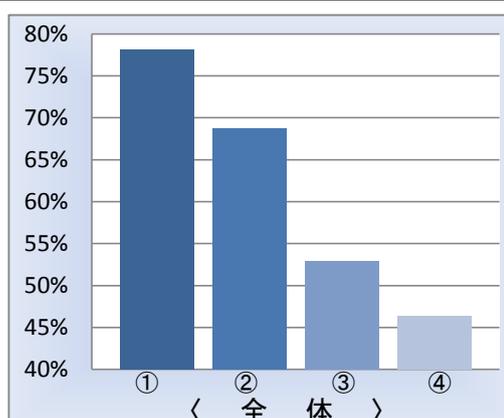
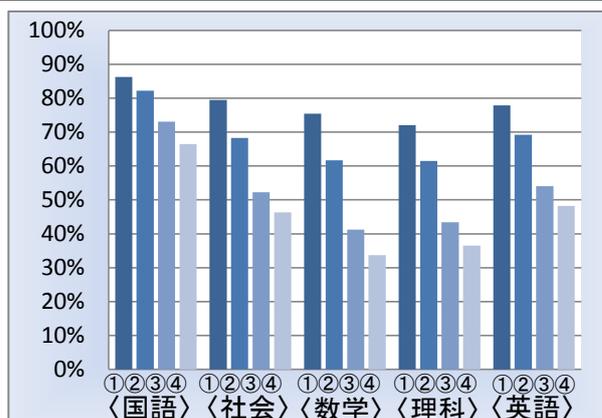
### 〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① よくわかる	84.1%	61.0%	80.2%	74.8%	75.7%
② だいたいわかる	77.3%	52.6%	70.1%	66.5%	67.2%
③ わからないことが多い	64.4%	41.7%	57.1%	54.1%	55.0%
④ ほとんどわからない	55.9%	34.2%	42.0%	47.8%	45.4%



### 〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① よくわかる	86.3%	79.5%	75.4%	72.0%	77.9%	78.1%
② だいたいわかる	82.2%	68.3%	61.7%	61.5%	69.2%	68.7%
③ わからないことが多い	73.1%	52.3%	41.3%	43.4%	54.1%	52.9%
④ ほとんどわからない	66.4%	46.4%	33.7%	36.5%	48.2%	46.4%



#### 【分析】

◇「学校の授業がよくわかる」と答える児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。

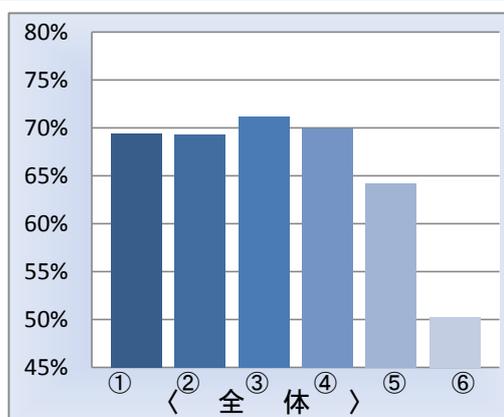
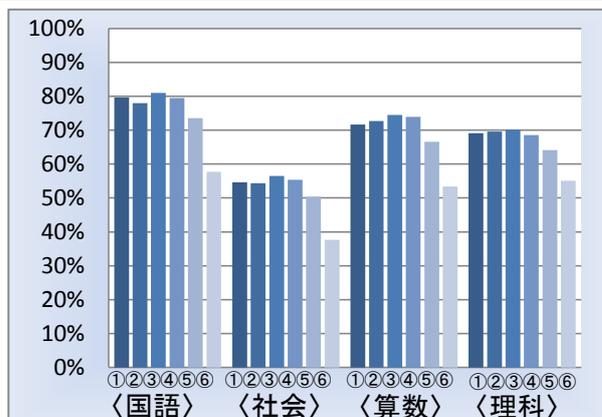
「学校の授業がどの程度わかりますか。」について、「よくわかる」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で75.7%、中学校で78.1%とたいへん高い値である。一方、「ほとんどわからない」を選択した児童生徒の平均正答率は、小学校で45.4%、中学校で46.4%となっている。学力が十分身に付いていない児童生徒は、自分自身で「ほとんどわからない」と感じているといえる。平成20年度の調査と比較すると、「よくわかる」児童生徒の割合は増えている一方で、「ほとんどわからない」を選択している児童生徒の割合も増え、小学校で全体の1.4%、中学校で3.1%となっている。（100、105頁参照）

「わからないことが多い」「ほとんどわからない」という児童生徒に対するきめ細かい指導・援助が必要である。

## 18 学校の授業以外に、ふだん(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。

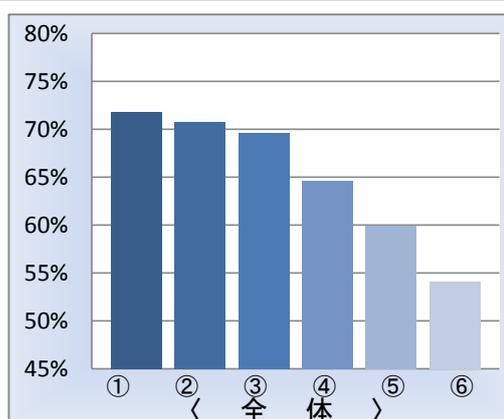
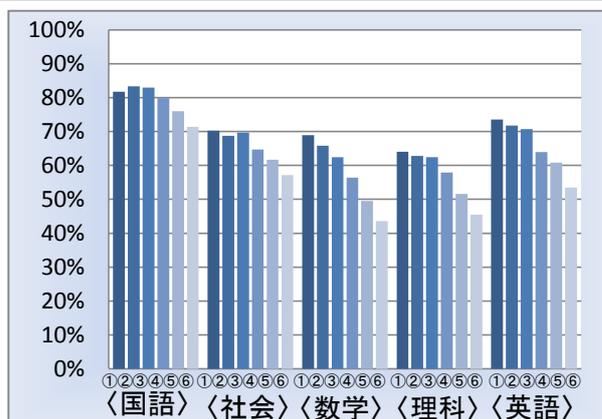
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① 3時間以上	79.7%	54.6%	71.7%	69.1%	69.4%
② 2時間以上、3時間より少ない	78.0%	54.3%	72.7%	69.6%	69.3%
③ 1時間以上、2時間より少ない	80.9%	56.5%	74.4%	70.1%	71.2%
④ 30分以上、1時間より少ない	79.4%	55.4%	73.9%	68.5%	69.9%
⑤ 30分より少ない	73.5%	50.4%	66.5%	64.1%	64.2%
⑥ 全くしない	57.7%	37.6%	53.4%	55.1%	50.3%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① 3時間以上	81.8%	70.2%	68.9%	64.1%	73.5%	71.8%
② 2時間以上、3時間より少ない	83.4%	68.7%	65.8%	62.8%	71.8%	70.8%
③ 1時間以上、2時間より少ない	83.0%	69.7%	62.4%	62.4%	70.7%	69.7%
④ 30分以上、1時間より少ない	79.9%	64.7%	56.4%	57.9%	63.9%	64.6%
⑤ 30分より少ない	76.0%	61.7%	49.5%	51.6%	60.8%	59.9%
⑥ 全くしない	71.4%	57.2%	43.6%	45.5%	53.5%	54.1%



### 【分析】

◇「学校の授業以外に勉強を全くしない」児童生徒の正答率は、低い傾向にある。

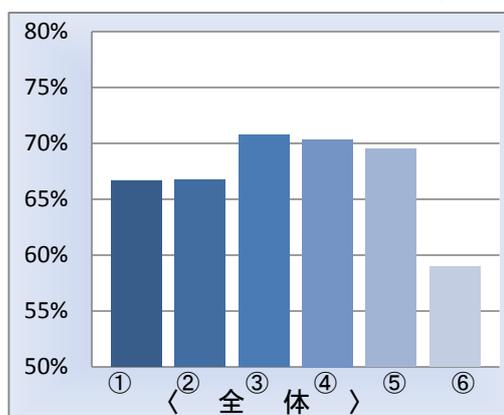
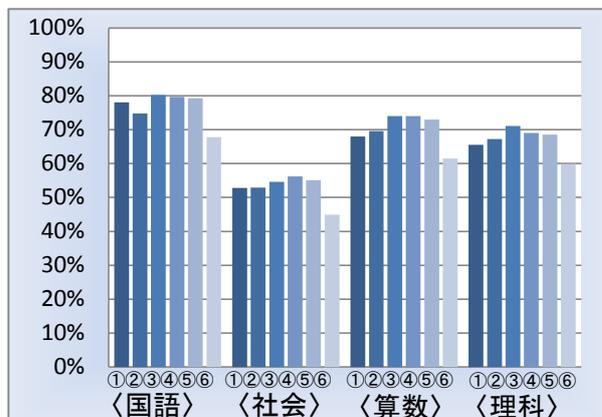
「学校の授業以外に勉強を全くしない」児童生徒の平均正答率は、小学校で50.3%、中学校で54.1%である。小学校では「1時間以上、2時間より少ない」を選択した児童の正答率が一番高く、「全くしない」児童との差は20%程度となっている。中学校では、「学校の授業以外の勉強時間が長い」生徒ほど正答率が高い傾向が見られ、「3時間以上勉強している」生徒と「全くしない」生徒との正答率の差は18%程度となっている。

発達の段階や個の学習状況・家庭環境等を踏まえて、家庭において適切な時間学習に取り組むことができるように指導援助を行うことが大切である。

## 19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。

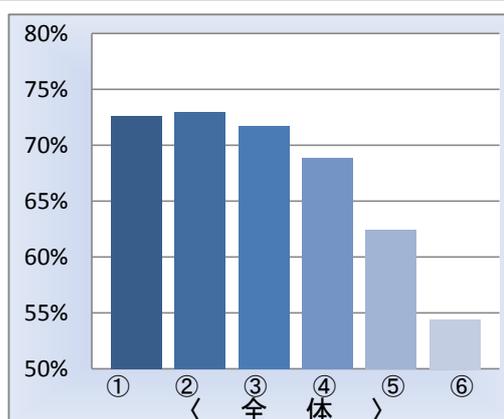
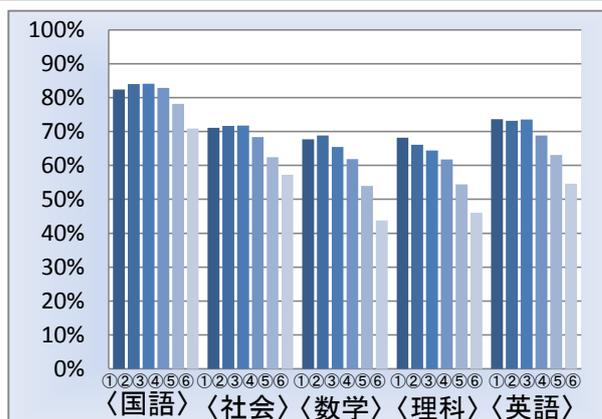
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① 4時間以上	78.1%	52.8%	68.0%	65.5%	66.7%
② 3時間以上、4時間より少ない	74.7%	52.9%	69.5%	67.3%	66.8%
③ 2時間以上、3時間より少ない	80.2%	54.6%	74.0%	71.1%	70.7%
④ 1時間以上、2時間より少ない	79.7%	56.3%	74.0%	69.0%	70.4%
⑤ 30分より少ない	79.3%	55.1%	73.0%	68.5%	69.5%
⑥ 全くしない	67.8%	44.9%	61.5%	59.9%	59.0%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① 4時間以上	82.4%	71.1%	67.7%	68.2%	73.6%	72.6%
② 3時間以上、4時間より少ない	84.0%	71.6%	68.8%	66.1%	73.2%	73.0%
③ 2時間以上、3時間より少ない	84.1%	71.7%	65.5%	64.4%	73.5%	71.7%
④ 1時間以上、2時間より少ない	82.9%	68.3%	61.9%	61.8%	68.9%	68.9%
⑤ 30分より少ない	78.2%	62.5%	54.0%	54.4%	63.1%	62.4%
⑥ 全くしない	70.9%	57.3%	43.8%	46.0%	54.6%	54.4%



### 【分析】

◇「休日に勉強を全くしない」児童生徒の平均正答率は低い傾向にある。

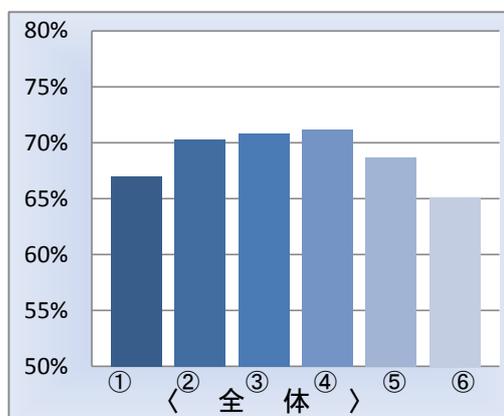
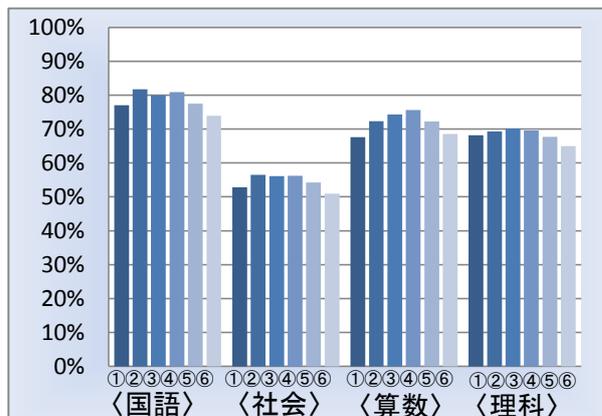
「休日の勉強時間が長い」児童生徒ほど正答率が高いという相関関係は見られない。

「休日に勉強を全くしない」児童生徒の平均正答率は、小学校で59.0%、中学校で54.4%である。小学校では「3時間以上」を選択した児童の正答率は必ずしも高くなく、「30分より少ない」「1時間以上2時間より少ない」「2時間以上3時間より少ない」を選択した児童の正答率が高く70%程度である。中学校では、「3時間以上、4時間より少ない」を選択した生徒の正答率が一番高く73%程度となっている。

20 家や図書館で、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしていますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

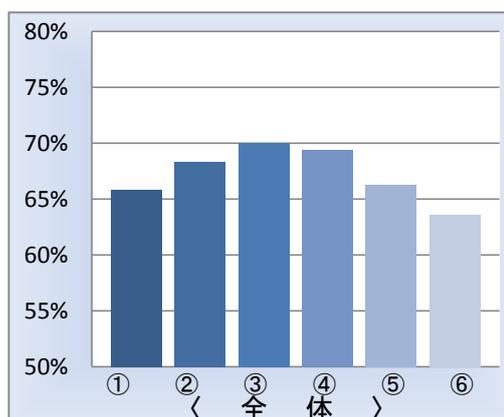
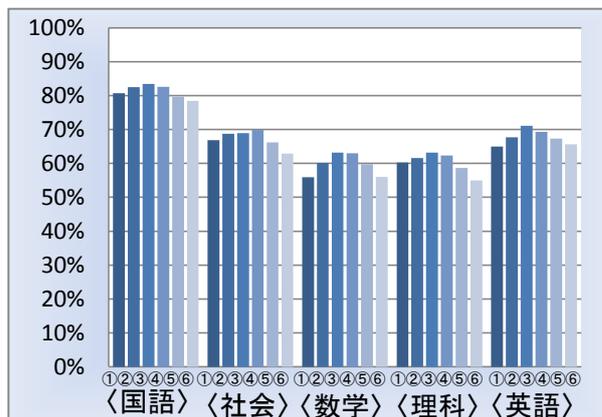
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① 2時間以上	77.0%	52.8%	67.6%	68.1%	67.0%
② 1時間以上、2時間より少ない	81.7%	56.5%	72.3%	69.3%	70.3%
③ 30分以上、1時間より少ない	80.0%	56.1%	74.3%	70.1%	70.8%
④ 10分以上、30分より少ない	80.9%	56.2%	75.6%	69.5%	71.2%
⑤ 10分より少ない	77.5%	54.3%	72.2%	67.7%	68.7%
⑥ 全くしない	73.9%	50.9%	68.5%	64.9%	65.1%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① 2時間以上	80.7%	66.9%	55.9%	60.2%	65.0%	65.9%
② 1時間以上、2時間より少ない	82.5%	68.8%	60.2%	61.6%	67.7%	68.4%
③ 30分以上、1時間より少ない	83.4%	68.9%	63.2%	63.2%	71.1%	70.0%
④ 10分以上、30分より少ない	82.6%	69.8%	63.0%	62.3%	69.3%	69.4%
⑤ 10分より少ない	79.7%	66.2%	59.8%	58.7%	67.3%	66.3%
⑥ 全くしない	78.5%	62.9%	56.0%	55.0%	65.7%	63.6%



【分析】

◇「読書を全くしない」児童生徒の正答率は、低い傾向にある。

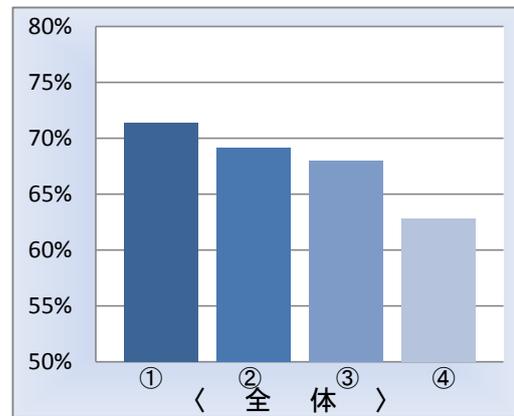
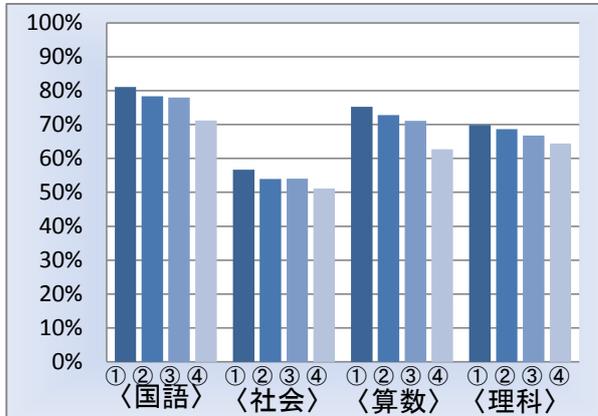
「家や図書館で読書を全くしない」児童生徒の平均正答率は、小学校で65.1%、中学校で63.6%である。小学校では「10分以上、30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」を選択した児童の正答率に差はなく70%程度となっている。中学校でも同様の傾向を示している。

平成20年度の調査と比較して、「全くしない」児童生徒の割合が大きく減少し、読書をする習慣が身に付いてきていること(101、106頁参照)を踏まえて、計画的に読書を進めていくことができるように指導することが大切である。

## 21 自分で計画を立てて勉強をしていますか。

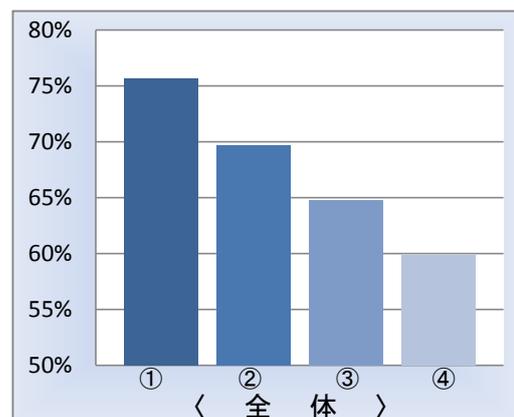
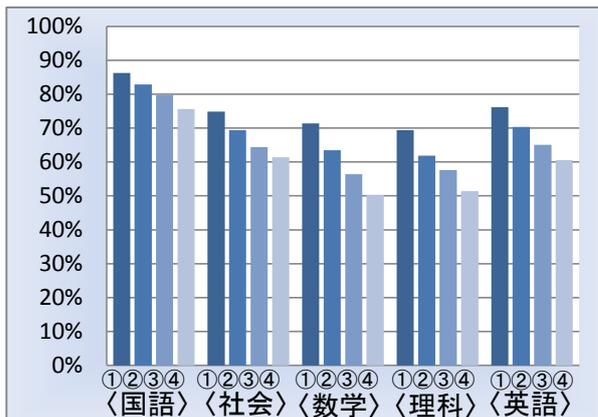
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① している	81.0%	56.7%	75.2%	69.9%	71.4%
② どちらかといえば、している	78.4%	53.9%	72.8%	68.7%	69.1%
③ どちらかといえば、していない	78.0%	54.0%	71.1%	66.7%	68.0%
④ 全くしていない	71.2%	51.1%	62.7%	64.4%	62.8%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① している	86.3%	74.9%	71.4%	69.4%	76.2%	75.7%
② どちらかといえば、している	82.8%	69.4%	63.4%	61.9%	70.3%	69.6%
③ どちらかといえば、していない	79.8%	64.4%	56.4%	57.6%	65.0%	64.7%
④ 全くしていない	75.6%	61.4%	50.3%	51.4%	60.5%	59.8%



### 【分析】

◇「自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

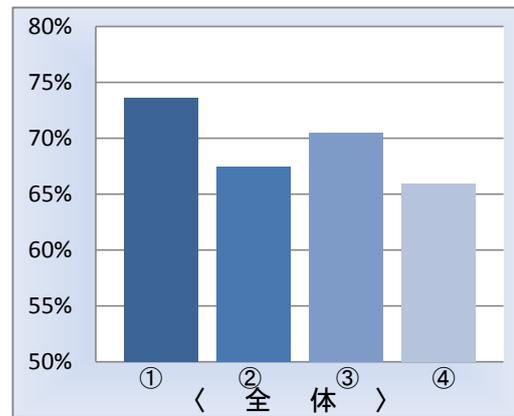
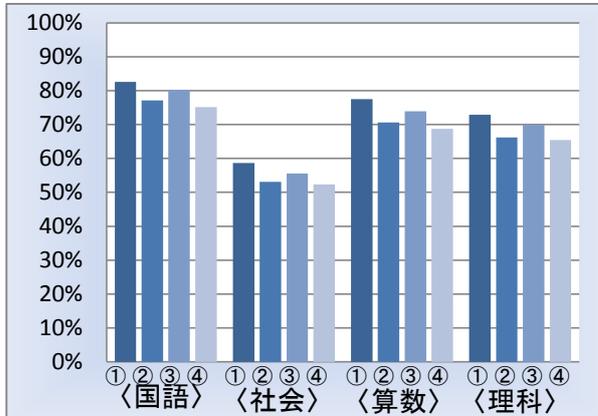
「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」について、「している」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で71.4%、中学校で75.7%と高い値である。一方、「全くしていない」を選択した児童生徒の平均正答率は、小学校で62.8%、中学校で59.8%となっている。「している」と「全くしていない」との平均正答率の差は、小学校が9%程度で中学校は16%程度で中学校の方が差が広がっている。教科をみると、「している」と「全くしていない」との正答率の差は、小学校では国語と算数、中学校では数学と理科が大きくなっている。

計画的な家庭学習を進めることができるように指導することが、学力の向上につながるといえる。

## 22 家で学校の授業の予習をしていますか。

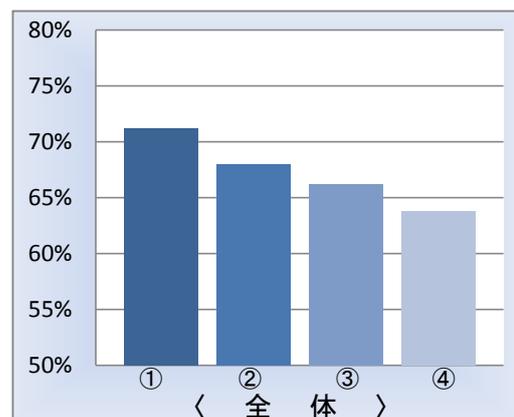
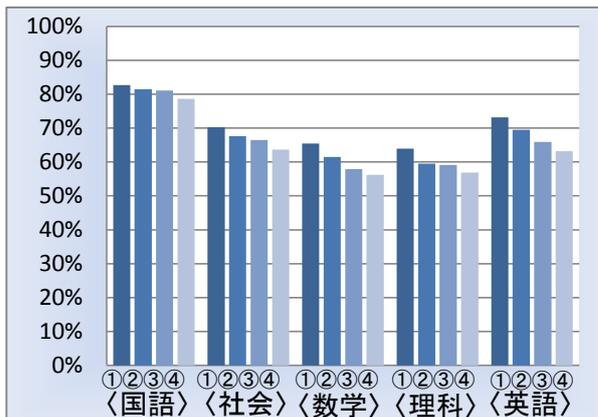
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① している	82.5%	58.7%	77.5%	72.9%	73.6%
② どちらかといえば、している	77.2%	53.1%	70.7%	66.2%	67.4%
③ どちらかといえば、していない	80.2%	55.6%	73.9%	70.0%	70.5%
④ 全くしていない	75.1%	52.3%	68.7%	65.5%	65.9%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① している	82.7%	70.3%	65.4%	63.9%	73.2%	71.2%
② どちらかといえば、している	81.4%	67.6%	61.5%	59.5%	69.5%	67.9%
③ どちらかといえば、していない	81.0%	66.5%	57.9%	59.1%	65.9%	66.2%
④ 全くしていない	78.6%	63.7%	56.2%	56.9%	63.2%	63.8%



### 【分析】

◇「家で学校の授業の予習をしている」児童生徒の正答率は、高い傾向にある。

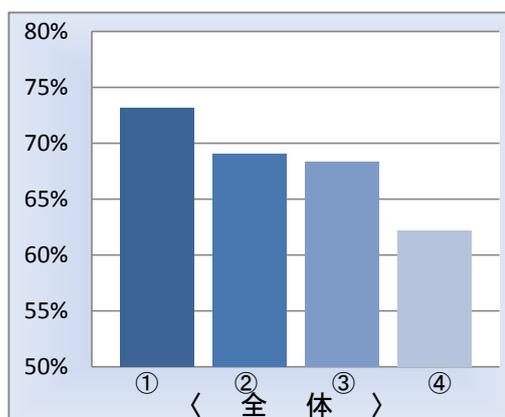
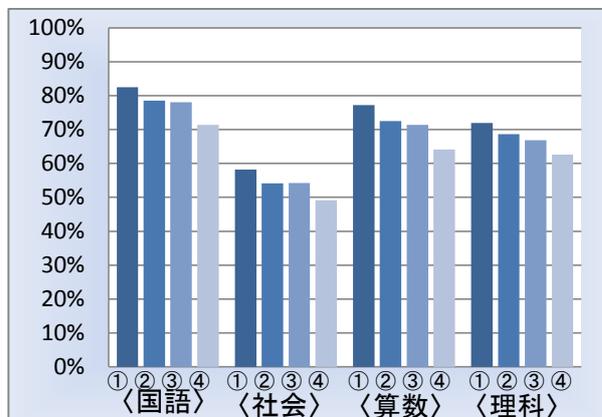
「家で学校の授業の予習をしていますか。」について、「している」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で73.6%、中学校で71.2%と高い値である。中学校では予習をしている生徒ほど平均正答率が高い値を示しており、授業の予習と学力との相関関係が顕著である。「している」と「全くしていない」との平均正答率の差をみると、英語で10.0%、数学で9.2%と大きな差がある。小学校では、授業の予習と学力との間に明確な相関関係は見られない。予習の進め方に課題があるのではないかと考えられる。

児童生徒の発達の段階に応じて、適切な予習の進め方を指導することが必要である。

## 23 家で学校の授業の復習をしていますか。

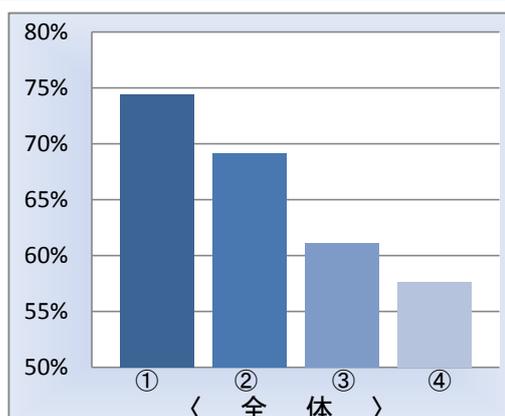
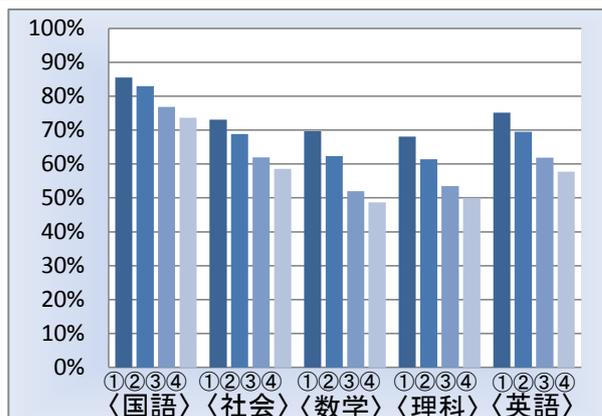
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① している	82.5%	58.2%	77.2%	72.0%	73.1%
② どちらかといえば、している	78.5%	54.2%	72.5%	68.7%	69.1%
③ どちらかといえば、していない	78.1%	54.3%	71.4%	66.9%	68.3%
④ 全くしていない	71.4%	49.2%	64.1%	62.6%	62.2%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① している	85.5%	73.0%	69.6%	68.1%	75.2%	74.4%
② どちらかといえば、している	82.9%	68.8%	62.4%	61.3%	69.5%	69.2%
③ どちらかといえば、していない	76.8%	61.9%	51.9%	53.4%	61.9%	61.1%
④ 全くしていない	73.7%	58.6%	48.6%	50.0%	57.7%	57.6%



### 【分析】

◇「家で学校の授業の復習をしている」児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

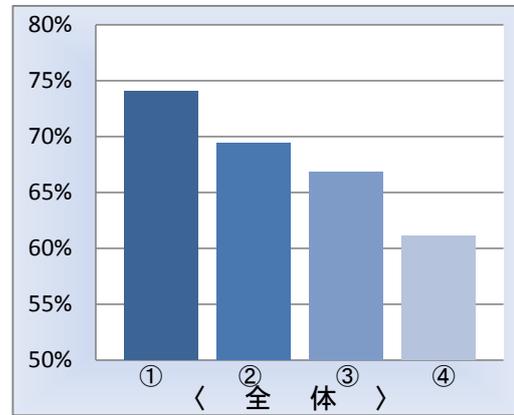
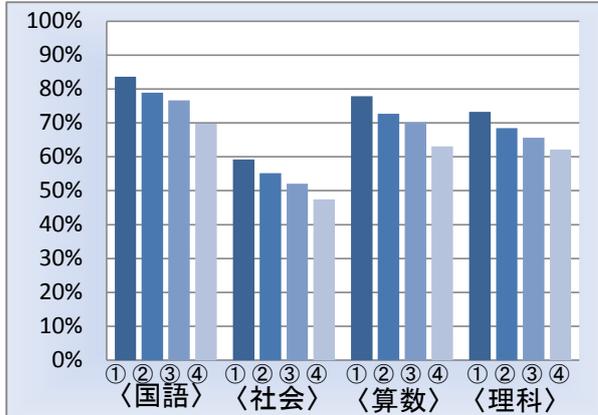
「家で学校の授業の復習をしていますか。」について、「している」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で73.1%、中学校で74.4%と高い値を示している。「どちらかといえば、している」「どちらかといえば、していない」「全くしていない」の順に平均正答率は下がり、「全くしていない」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で62.2%、中学校で57.6%となっている。「している」と「全くしていない」との平均正答率の差は小学校より中学校の方が大きく、数学で21.0%、理科で18.1%、英語で17.5%差が開いている。

家で学校の授業の復習を行うことは、学力の定着を図るために極めて重要であり、発達の段階に応じて適切な復習の進め方を指導することが必要である。

## 24 授業やテストで間違えた問題やよくわからなかった問題を、後で勉強していますか。

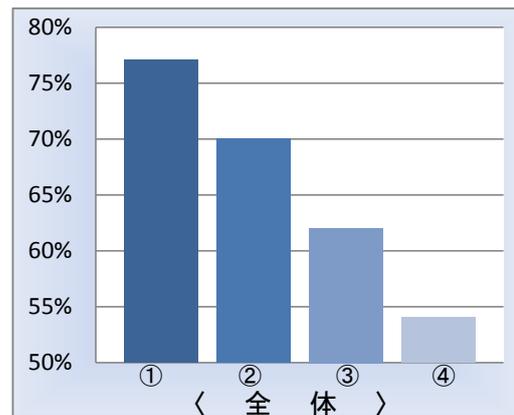
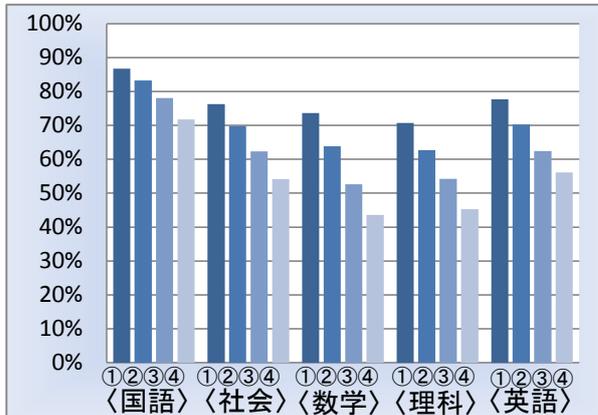
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① している	83.6%	59.2%	77.9%	73.3%	74.1%
② どちらかといえば、している	78.9%	55.2%	72.7%	68.5%	69.4%
③ どちらかといえば、していない	76.6%	52.0%	70.2%	65.7%	66.8%
④ 全くしていない	69.8%	47.5%	63.1%	62.1%	61.1%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① している	86.7%	76.3%	73.6%	70.7%	77.7%	77.1%
② どちらかといえば、している	83.2%	69.7%	63.8%	62.7%	70.3%	70.0%
③ どちらかといえば、していない	78.0%	62.3%	52.7%	54.3%	62.4%	62.0%
④ 全くしていない	71.7%	54.2%	43.6%	45.2%	56.1%	54.1%



### 【分析】

◇「授業やテストで間違えた問題やよくわからなかった問題を、後で勉強している」児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

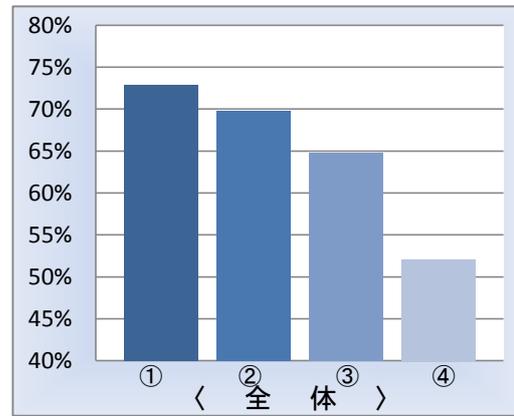
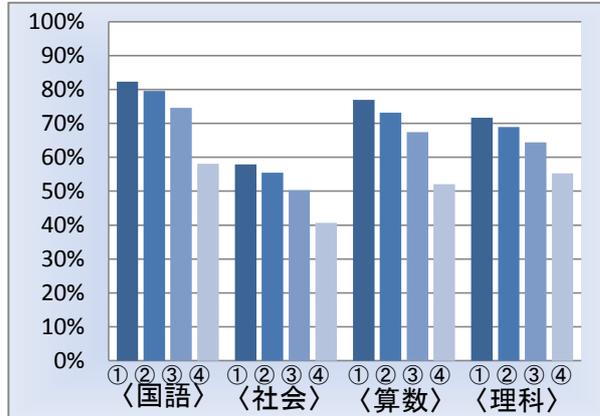
「授業やテストで間違えた問題やよくわからなかった問題を、後で勉強していますか。」について、「している」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で74.1%、中学校で77.1%と高い値を示している。「どちらかといえば、している」「どちらかといえば、していない」「全くしていない」の順に平均正答率は下がり、「全くしていない」を選択した児童生徒は小学校で61.1%、中学校で54.1%となっている。「している」と「全くしていない」との平均正答率の差は小学校で13%、中学校で23%と大きく開いている。教科別でみると、中学校の数学で30.1%、理科で25.4%と大きな差がある。

間違えた問題やよくわからなかった問題をそのままにしておくことなく、わかるまで粘り強く学習することが、確かな学力を身に付ける上で極めて大切なことであるといえる。

## 25 授業で、友達の考えをよく聞いたり、自分の考えをよく発表したりしていますか。

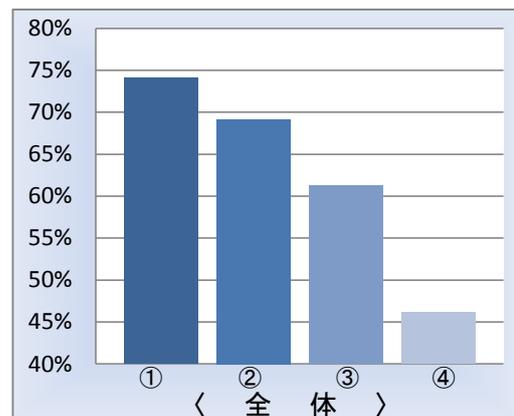
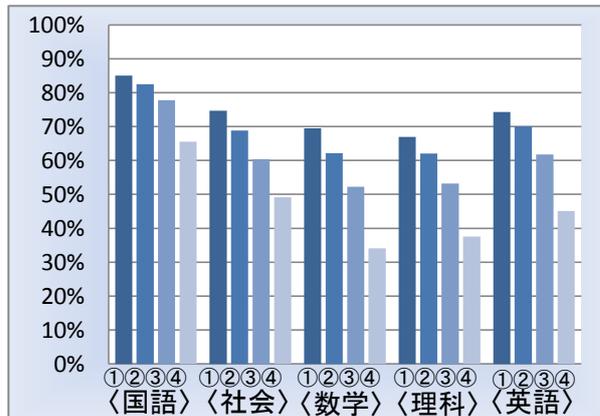
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① している	82.3%	57.9%	76.9%	71.6%	72.9%
② どちらかといえば、している	79.5%	55.5%	73.2%	68.9%	69.9%
③ どちらかといえば、していない	74.6%	50.3%	67.4%	64.4%	64.8%
④ 全くしていない	58.1%	40.7%	52.1%	55.3%	52.0%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① している	85.0%	74.7%	69.5%	66.9%	74.2%	74.1%
② どちらかといえば、している	82.5%	68.8%	62.2%	62.0%	70.1%	69.2%
③ どちらかといえば、していない	77.8%	60.3%	52.3%	53.2%	61.8%	61.2%
④ 全くしていない	65.6%	49.2%	34.1%	37.6%	45.1%	46.1%



### 【分析】

◇「授業で、友達の考えをよく聞いたり、自分の考えをよく発表したりしている」児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

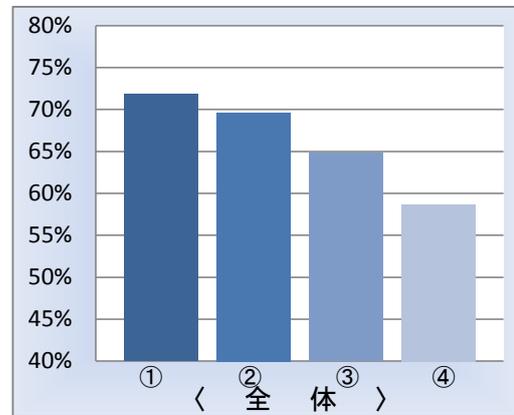
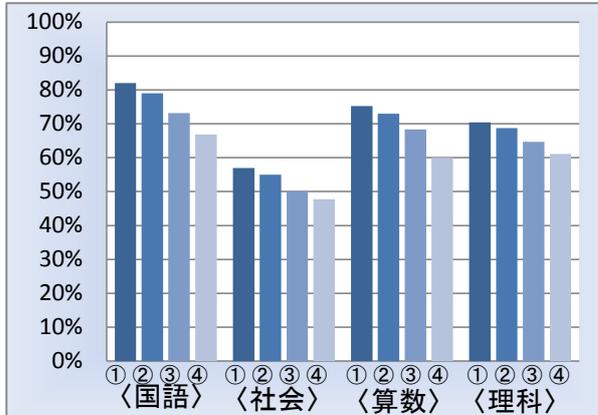
「授業で、友達の考えをよく聞いたり、自分の考えをよく発表したりしていますか。」について、「している」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で72.9%、中学校で74.1%と高い値を示している。「どちらかといえば、している」「どちらかといえば、していない」「全くしていない」の順に平均正答率は下がっている。「している」と「全くしていない」との平均正答率の差は小学校で20.9%、中学校で28%となっている。教科別にみると、差が大きいのは小学校では算数(24.8%)、国語(24.2%)、中学校では数学(35.4%)、理科(29.3%)、英語(29.1%)である。

授業のなかで、「聞く」「話す」という学習活動は、確かな学力を身に付けていく上で極めて大切な活動であり、児童生徒自身が「聞くこと」や「話すこと」に自信をもつことができるようになることが、学力の向上につながるといえる。

**26 授業で、自分の考えや学級の友達の考え、学習した内容などをわかりやすくノートに書いていますか。**

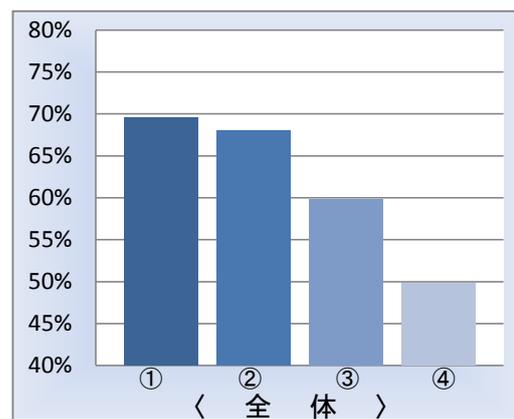
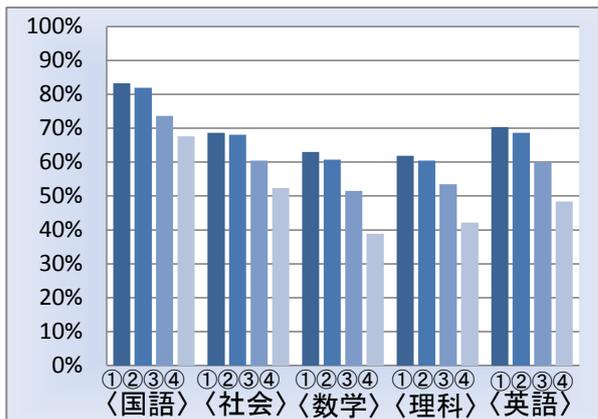
〈小学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	算数	理科	全体
① 書いている	82.0%	57.0%	75.2%	70.4%	71.8%
② どちらかといえば、書いている	79.0%	55.0%	73.0%	68.8%	69.6%
③ どちらかといえば、書いていない	73.1%	50.2%	68.3%	64.7%	64.8%
④ 書いていない	66.9%	47.7%	59.9%	61.1%	58.7%



〈中学校〉 各回答別各教科等の平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
① 書いている	83.3%	68.7%	63.0%	61.9%	70.3%	69.5%
② どちらかといえば、書いている	81.9%	68.0%	60.8%	60.4%	68.7%	68.0%
③ どちらかといえば、書いていない	73.7%	60.5%	51.5%	53.5%	60.0%	59.8%
④ 書いていない	67.6%	52.3%	38.9%	42.2%	48.4%	49.8%



【分析】

◇「授業で、自分の考えや学級の友達の考え、学習した内容などをわかりやすくノートに書いている」児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

「授業で、自分の考えや学級の友達の考え、学習した内容などをわかりやすくノートに書いていますか。」について、「書いている」を選択した児童生徒の平均正答率は小学校で71.8%、中学校で69.5%で、「どちらかといえば、書いている」「どちらかといえば、書いていない」「書いていない」の順に平均正答率は下がっている。「書いている」と「書いていない」との平均正答率の差は小学校で13.1%、中学校で19.7%と開いている。教科別でみると、中学校の数学（24.1%）、英語（21.9%）において大きな差がある。

書く活動の充実を図り、児童生徒が学習内容などをわかりやすくまとめることができるようにすることが、学力の向上につながるという。